

パーソナリティ障害の全般的診断基準

A.	その人の属する文化から期待されるものより著しく偏った、内的体験及び行動の持続的様式。この様式は、以下の領域の2つ（又はそれ以上）の領域に現れる。	チェック
		(1) 認知（すなわち、自己、他者、及び出来事を知覚し解釈する仕方）
		(2) 感情性（すなわち、情動反応の範囲、強さ、安定性、及び適切さ）
		(3) 対人関係機能
		(4) 衝動の制御
B.	その持続的様式は柔軟性がなく、個人的及び社会的状況の幅広い範囲に広がっている。	
C.	その持続的様式が、臨床的に著しい苦痛、又は社会的、職業的、又は他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている。	
D.	その様式は安定し、長時間続いており、その始まりは少なくとも青年期又は成人期早期にまでさかのぼることができる。	
E.	その持続的様式は、他の精神疾患の表れ、又はその結果ではうまく説明できない。	
F.	その持続的様式は、物質（例；乱用薬物、投薬）又は一般身体疾患（例；頭部外傷）の直接的な生理学的作用によるものではない。	

※本文は、「DSM-IV-TR 分類と診断の手引き」（医学書院）を参照しています。